

9月に入ってもまだまだ暑い日々が続いていますが、卒業予定年次の生徒は、進路決定に向けて日々頑張っていることでしょう。今回の進路だよりでは主に進学希望者に向けての情報をお伝えします。



エントリーシート・志望理由書の記入対策



総合型選抜・学校推薦型選抜のエントリーシートや志望理由書は、あなたの思いや将来像を志望先に伝える大切な自己表現の場です。まず意識したいのは「読み手にとってわかりやすく、あなたらしさが伝わる文章」にすることです。

構成は【①志望のきっかけ → ②活かしたい経験・学びたいこと → ③将来の目標】の流れが基本です。

①志望のきっかけ

「なぜその学校・進路を選んだのか」を具体的に書きましょう。

例えば「自分のペースで学びながら希望の社会福祉士の受験資格を得られる環境に魅力を感じた」「地域の子ども食堂でボランティア活動を行い、様々な年齢や背景の人々と接し心理学への関心が強くなった」など、志望校の特徴と自分の希望を結びつけることが大切です。

②活かしたい経験・学びたいこと

自分の経験や強みをアピールします。大切なのは「通信制ならではの学びや経験」を“価値”として、自分の言葉で伝えることです。自己管理能力や計画性、オンラインでの情報収集力、レポート作成力などの通信制で得たスキルを具体的なエピソードで示すと説得力が増します。読書等から得た気づき、ボランティアやアルバイトでの人との接し方など、日常の中で芽生えた関心を盛り込みます。数字や成果を入れるとさらに効果的です。

例えば「月20枚のレポートを期限までに提出するために計画を立て、継続的に学習を進めた経験」や「独学でマーケティング関連の書籍を読み、アルバイトにいかした経験から経営学部で深く学びたくなった」「心理士やカウンセラーの受験資格を得ることが目標です」など、具体的な行動を書きましょう。

③将来の目標

将来の目標や進学後にどう成長したいかを前向きに書きます。

例えば「学んだ法律の知識を活かして行政職に就き、地域に貢献したい」「専門資格を取得し、保育の職に就きたい」「大学卒業後は心理学の知識を活用できるスクールカウンセラーに興味があります。地域で“安心して話せる居場所”をつくる活動をしていきたいです」など未来への意欲を示しましょう。

★文章は簡潔で誤字脱字のないようにし、読みやすい段落構成を心がけます。作成中に必ず学校に登校して先生に確認してもらい、客観的な意見をもらいましょう。そして文字は心を込めて丁寧に書きましょう。あなたの言葉で、あなたの物語を丁寧に描くことが合格への第一歩です。





総合型選抜・学校推薦型選抜 面接対策

総合型選抜・学校推薦型選抜では、面接が合否を左右します。自分の学び方や経験をどう伝えるかが重要です。

① 頻出質問への準備

「志望理由」「将来の目標」「高校生活で頑張ったこと」「長所・短所」、転入生であれば「転校した理由」はほぼ必ず聞かれます。これらは事前に文章化し、声に出して何度も練習しましょう。通信制を選択した理由、学び方や時間管理、困難を乗り越えた経験を具体的に盛り込むと面接官に伝わります。

② 想定外質問への対応

「最近気になったニュースは?」「もし別の進路を選ぶなら?」「あなたを色で例えてその理由を説明しなさい」など、想定外の質問もあります。焦らず一呼吸置き、結論→理由→具体例の順で答えると整理された印象になります。日頃からニュースや身近な出来事に意見を持ち会話をする習慣が有効です。

③ 服装・髪型・アクセサリー・印象

制服がない場合はスーツや落ち着いた色の服を選び、清潔感を意識してください。髪型は顔がよく見えるよう整え、派手な染色は避けましょう。ピアスやネックレスなどのアクセサリーは外すのが基本です。面接官は第一印象で「真剣さ」や「社会性」を見ています。前向きな明るい印象が大切となります。

④ 模擬面接の活用

先生や友人に依頼し、練習を行いましょう。録音・録画で声や所作の改善点を確認すると効果的です。面接は「完璧な答え」よりも「自分らしさ」と「学びたい意欲」が評価されます。笑顔や明るい声など日常での意識づけと準備で、本番に自信を持って臨みましょう。『面接実践』のレポート解説や『進路の手引き』も参考にしましょう。



基礎学力と生活習慣が継続の鍵

進学は、新しい学びと出会いの場です。しかし、入学後に順調なスタートを切るためには、専門知識よりも先に、高校までに培った「基礎学力」と「生活習慣」が欠かせません。

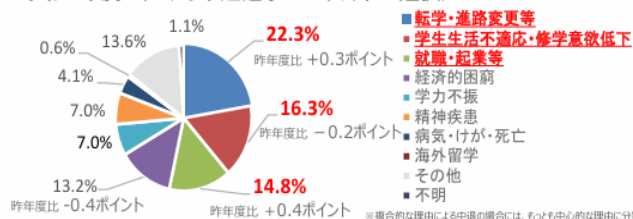
基礎学力：国語力は、講義内容を正確に理解し、自分の考えを論理的にまとめる力につながります。数学は、理系だけでなく経済・心理・社会学・情報など多くの分野で統計やデータ分析に必要です。数式を扱う力は、情報を正しく読み解く基盤です。英語は、教科書や論文の読解、資料検索などで必須です。

多くの大学では合格後に『入学前課題』が出されます。大学生活の予習であり、学びのギャップを埋める貴重な機会です。自分の弱点を確認し、必要な復習や調べ学習につなげましょう。高校でのレポートも同じです。提出はゴールではなく、理解を深めるためのプロセスです。解答を見直し、間違いの理由を考え、復習する習慣をつけましょう。この積み重ねが、進学後の学びを支える確かな土台となります。

生活習慣：通信制では自分のペースで学べる反面、不規則な生活になりやすい場合もあります。しかし、多くの進学先では朝からの講義やグループワーク、課外活動など、決められた時間に沿って行動することが求められます。進学後の生活を順調に進めるため規則正しい睡眠・食事・学習の習慣を整えましょう。

進学はゴールではなく、新たなスタートです。基礎学力と生活習慣、この2つの土台をしっかりと築き、充実した専門学校、短期大学、大学生活を迎えましょう。

令和6年度における中途退学理由(単一選択)



文部科学省 令和6年度学生の中途退学者の調査結果より